

製剤種差検討会

「製剤設計における種差の問題検討会」

第6回 事例報告会

日時：2018年7月5日（木）10:00～17:20
会場：キャンパスプラザ京都 第1講義室

2016年4月に発足した製剤種差検討会での事例報告は今回で6回目を迎えました。79名が参加し、4例の事例報告と3トピックの総合討論がなされました。これまでに引き続き、今回も非常に白熱した議論が交わされ、盛況のうちに会を終えることができました。



▲開会あいさつ
菊池寛先生（エーザイ）



▲畑中朋美先生
（城西大学）



▲榊原裕幸先生
（田辺三菱製薬）

事例報告① 畑中朋美先生

- 皮膚代謝評価におけるヒト化モデルマウス利用の可能性

事例報告② 榊原裕幸先生

- 徐放性製剤開発における動物吸収評価のあり方

事例報告③ 角田佐保枝先生

- 難溶性薬剤の開発における吸収性評価

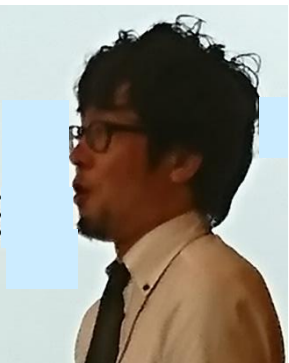
事例報告④ 森幹永先生

- リリース性を精密制御したドキシソルビンリポソームのマウスとラットでの動態種差

事例報告ファシリテーター、総合討論進行役の先生方



▲角田佐保枝先生
（富山化学工業）



▲森幹永先生
（富士フィルム）



▲閉会あいさつ
山下伸二先生（摂南大学）



多くの参加者からの積極的な意見や質問で、活発に議論しました。



情報交換会には58名が参加しました。



第7回事例報告会は12月に開催の予定です（開催地：東京）。

レイアウト：
上林 敦（アステラス製薬）
兵頭 健治（エーザイ）